



第1回秋田県立図書館特別展示
「秋田県立図書館所蔵貴重資料展」



第2回秋田県立図書館特別展示
「安藤和風 秋田を愛した新聞人
～時雨庵文庫の紹介～」

図書館の展示について

秋田県立図書館主幹 福田 真悦

秋田県立図書館は明治三十二年（一八九九年）に開館し、現在も資料の収集を続けています。図書館の資料は図書だけではなく、雑誌や新聞があり、その他に書画軸等があります。普段利用者は二階閲覧室の資料が中心で、請求があれば古い資料を書庫から出納し、閲覧や貸し出しを行っています。遠距離の利用者には図書館間相互貸借というシステムで資料を貸し出し、相手館で閲覧、貸し出しをしてもらう場合もあります。ただ、中には資料の状態や形態によって、来館しないと閲覧できない資料や、請求を受けても出納、相互貸借ができない資料もあります。その代表的な資料に貴重資料や書画軸、寄贈文庫等があります。一部資料は写真撮影され、秋田県立図書館デジタルアーカイブで公開されています。デジタル化は計画的に順番に行っていますが、なかなか終わりません。ただ、デジタル資料は精密になればなるほど、現物資料から伝わる温かさから離れていくような感じがします。

そのような資料を図書館の展示として、利用者に公開しています。今年度は特別展示室で六月から七月には「秋田県立図書館所蔵貴重資料展」を、九月から十月には「安藤和風 秋田を愛した新聞人 時雨庵文庫の紹介」を開催し、資料を紹介しました。また、過去には秋田県指定有形文化財として登録された資料の展示等も行っています。閲覧室内では郷土資料を展示するコーナーもあります。現在は「種蒔く人」とその周辺、創刊100年というテーマで展示を行っています。また、他の県機関の展示も行っており、今年度は博物館、埋蔵文化財センター、近代美術館等と連携し展示を行っています。

図書館は気軽に入ることができる敷居の低い場所と言われます。そのような図書館で現物を見て、資料の実際の大きさや色、筆遣いを確認し、資料の折れや汚れなどの時間経過を感じてもらえればと思います。また、現物資料の内容に興味が出た時は、関連する資料がすぐそばの図書館閲覧室にあります。また興味を持った資料の調査の手助けをする図書館職員もいます。

これからもたくさんさんの資料を紹介していきますので、ぜひ来館し、図書館の展示を楽しんでください。

第2回秋田県立図書館特別展示

「安藤和風 秋田を愛した新聞人～時雨庵文庫の紹介～」

令和3年9月30日(木)から10月24日(日)まで図書館2階特別展示室において上記の展示会を開催しました。資料93点を展示し、会期中の入館者は1,674人でした。

1 はじめに

県立図書館には個人から寄贈された文庫があります。資料を請求すると閲覧ができますが、普段はなかなか見ることができません。今回は県立図書館の文庫第1号となる「時雨庵文庫」を紹介しました。

2 安藤和風と時雨庵文庫

安藤和風は、秋田魁新報社社長で卓越した新聞人であったと共に、俳人、郷土史家及び各方面の趣味家としても郷土に重きをなした人であり、作家としてもその名を知られています。秋田県民のためにと大正5年から始まり、昭和11年に世を去るまで続けられた寄贈資料は、俳号にちなんで「時雨庵文庫」と命名されました。俳諧関係の資料や郷土先達の著作の他、秋田県の歴史資料、日本や世界を知るための資料など、優れた本や珍しい本も数多く含まれており、平成8年には御子息の安藤五百枝氏から和風遺愛の書画軸98点が寄贈され、その数は1,957点にも及びます。

3 展示の紹介

今回の展示では、和風が編纂した資料を始め、和風が収集した地図や書画軸を中心に紹介しました。

【1】『安藤和風 印譜 色紙』



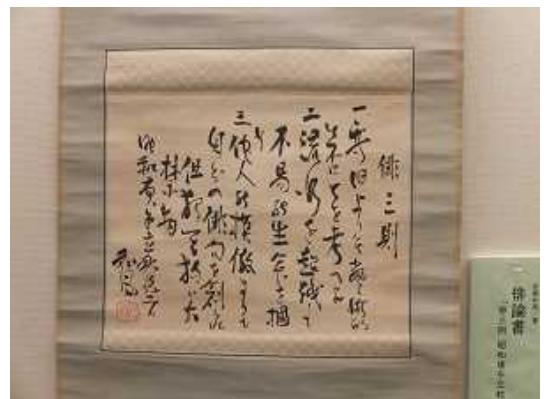
和風が使用していた様々な落款や印章が捺された色紙です。和風の名前が記されているものはもちろんですが、中には蝶や雲などの図案が用いられたものや、ローマ字で「ANDO WAFU」と記されたものなど、個性的なものも含まれています。

【2】『和風座像』



昭和4年に近藤浩一路が描いた作品です。和風の肖像写真は真面目な顔をしているものが多いのですが、こちらの作品では穏やかに微笑んでいる和風が描かれており、とても柔らかい印象を受けます。和風の違う一面が垣間見られる作品です。

【3】『俳論書』



俳人としても活躍した和風が、昭和5年に書いたものです。「俳三則」として、俳句を詠む際の3つの心構えを記しています。これは全ての創作活動に通じるものと思われます。

4 おわりに

県立図書館には紹介しきれなかった資料が数多くあります。これからも展示等を通して資料を紹介していきたいと思います。

Topics

～県立図書館の事業やイベントなどの紹介～

博物館との連携展示「悪疫退散！～災いを はらい、福を呼ぶ～」

4月3日(土)から5月25日(火)まで、博物館との連携展示「悪疫退散！～災いをはらい、福を呼ぶ～」を開催しました。

人々は昔から、予期せぬ災害や疫病と闘い続け、暮らしに使う道具や縁起物、まじないによって、様々な災厄をはらい、福を呼び込もうとする工夫をしてきました。今回の展示では江戸時代から昭和前期にかけて個人宅などで保管された道具や縁起物44点を展示しました。

けがの回復を祈って神社に奉納された木製の足形や手形、魔除けの意味をもつ「べらぼう^{かじ}風」、また明治初期の「遐邇^{あまひろ}新聞」(秋田魁新報の前身)には、県内でも「尼彦入道」の絵を戸口に張って拝む厄除けの風習があったことも紹介されました。新型コロナウイルス禍ということもあり、とても人気の高い展示でした。



けがの回復を祈って奉納された足形(左)と手形(右)



魔除けの意味をもつ「べらぼう風」

学校図書館職員等研修会

7月29日(木)、高等学校や特別支援学校の教職員と生徒を対象に、学校図書館職員等研修会を開催しました。

今年度はオンラインによる開催に取り組み、web会議システムを使って、県立図書館と参加した各校をネットで結び実施しました。前半は、県立図書館職員による講義です。講義1「調べ方講座」では、調査活動をするときの情報の集め方や、集めた情報の活用の仕方等についてコツを解説しました。講義2「読み聞かせ講座」では、読み聞かせで使用する絵本の選び方や、読むときに気をつけるポイント等について実演を交えて説明しました。どちらの講義も2人の職員による対談

形式で進めましたが、参加者にも分かりやすいと好評でした。後半は、参加校の生徒による発表です。自校の学校図書館や委員会活動について、写真によるスライドショー形式で紹介をしてもらいました。各校から活発な発表があり、充実した研修となりました。



パソコンとビデオカメラを使って参加校へ映像を配信



職員の対談形式による講義

第45回秋田県図書館大会

9月29日(水)、県立図書館をメイン会場として、初のオンラインによる秋田県図書館大会を開催しました。オンラインによる開催は設備や各参加者との接続の確認など事前準備も大変でしたが、遠方からも気軽に参加できるというメリットもあり、コロナ禍でありながら、107名と大変多くの参加がありました。

はじめに、『私と本と図書館と…読書の意義、図書館に期待すること』と題し、米田進前県教育長の講演がありました。続いて大館市立栗盛記念図書館、秋田市立中央図書館明德館、湯沢市立湯沢図書館より、コロナ対策の変遷や、工夫を凝らして実施した取り組みなどについて事例報告があり、最後に米田氏と館長より講評がありました。



基調講演をいただいた米田氏

Pick up

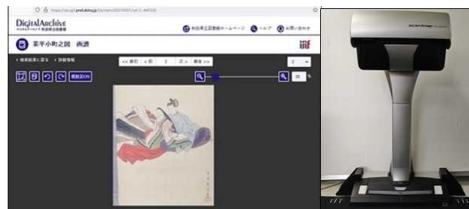
～各班からの話題～

図書資料班

デジタルアーカイブの紹介

県立図書館のデジタルアーカイブを紹介します。現在、画像・音声・索引など計44万点を超える資料が登録されています。中には書庫にあって通常見ることのできない、絵巻物の「御曹子島渡り」や「佐竹本三十六歌仙絵巻」（模写絵巻）などの貴重資料の画像もあります。

今年度はスキャナーを導入し、平成30年3月16日に秋田県指定有形文化財（書籍・典籍）に指定された手柄岡持に関する資料15点を登録しました。この機会にぜひご覧ください。



登録した『業平小町之図 画讀』と導入したスキャナー

情報班・サービス班

わいわい文庫(マルチメディアダイジー図書)の紹介



わいわい文庫の他、大活字本、LLブック、点字の本など様々なバリアフリー資料を紹介する展示

活字や本という形態での読書が困難な方でも読書を楽しめる資料（バリアフリー資料）があるのをご存じですか？当館では大活字本など数種類のバリアフリー資料を用意しています。6月には、「マルチメディアダイジー図書」のわい

わい文庫シリーズが42点新たに加わりました。これは、文字や音声、画像を同時に再生できるデジタル録音図書です。わいわい文庫シリーズは、物語のほか、社会や生き物、アウトドアなど、主に子ども向けの作品が収録されています。利用にあたっては、「視覚障害者等」での利用登録が必要なものが多いですが、障害の有無に関わらず、どなたでも利用できるものもあります。是非ご利用ください。

企画・広報班

学校用セット資料の追加・更新

高等学校・特別支援学校向けのセット資料を54セット追加・更新し、11月より各学校へ貸し出しを行っています。今回は、様々な生物について学ぶことができるセットや、各国の料理のレシピを集めたセット等を新規に追加しました。現在学校向けセット資料は75テーマ、485セットを準備しており、多くの学校に利用されています。



セット資料は、学校図書館や校内の読書コーナーで活用されています。

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■近代美術館との連携展示

特別展示「ファッション・アワードー「装い」の表現ー」

作家たちが描く人物の装いから時代の風俗や物語の背景を垣間見ることがあるように、着物や装束などの「装い」に注目することも、鑑賞の楽しみの一つです。

今回の展示では、人をつつむ「装い」の表現をキーワードに選んだ美術作品を紹介します。近代美術館の日本画、版画、素描、デザインの各分野に描かれた、様々な「表現」を味わいます。

【期間】 12月10日(金) から1月25日(火)まで
※毎週水曜日、年末年始は休館日

【時間】 午前9時30分から午後5時まで

【会場】 2階特別展示室

【参加費】 無料

【主な展示品】 橘小夢「留袖図案 御所車に草花」、勝平得之「雪国の子どもたち」、高橋萬年「弁財天」、草薨興宗「若い婦人像」 他